

## 巻頭言(24号掲載)

21世紀と人間環境

代表理事 安立 一郎

21世紀の幕開け2001年の輝かしい新年おめでとうございます。

今から100億年前に宇宙が誕生しました。

当初、数百億度の高温で、宇宙は爆発的に膨張を始め、十数分後には、80%が水素に、20%がヘリウムになり、星の中心温度が数百億度になると、ヘリウムが核融合を始め、炭素・酸素・ネオン・マグネシウムができ、さらに、珪素・硫黄・カルシウム・燐・鉄まで作られました。

今よりおよそ60億年の昔、銀河系の端の方で大爆発があり、その中心部で核融合反応の火が付き、輝き出しました。それが太陽で、その衛星の一個が地球であります。

地球は、数十億年かけて、大気・水・土・緑のバランスのもとに、有害物質を取り除き、過酷な環境をやわらげて、生命を育ててきました。

折角、生命に都合の良い状態で安定している地球の環境を、わずか200万年前に出現したばかりのわれわれ人間が、今のような地球破壊を続ければ、後30億年は寿命があると考えられている地球に、人間が今後1000年あるいは数百年先までも住み続けることができると、はたして誰が保証できるでしょうか。

### 1) 人口増大と食料

地球上の人口は、現在60億人、2050年には100億人となります。高度科学技術の応用によっても、人口に見合う食料の安定供給は、21世紀を待たず限界にきております。人口対策は、21世紀半ばまでに解決しなければなりません。

### 2) 資源・エネルギーの枯渇

石油・石炭・ウラン・金・白金・鉛・銅などは、地上から100～200年で枯渇するといわれており、これらのリサイクルと代替品の開発、実施が急務となってまいりました。海水・海底の資源開発、さらに地球の生態系を乱すことのない宇宙の資源開発も必要となってきております。エネルギーとしては、太陽エネルギー・風力・水力・海洋力等の活用拡大を図る必要があります。

### 3) 環境保全の徹底

炭酸ガスによる地球温暖化やフロンガスによるオゾン破壊等により、20世紀末の地球は病んで大きな危険をはらんできております。これに対する21世紀の対策として、

- \*土・緑・大気・海洋の汚染対策
- \*猛毒廃棄物・原子力廃棄物などの永久処理方法の確立
- \*地球温暖化防止対策
- \*緑化対策(砂漠の緑化を含めて)
- \*人間教育・環境教育の徹底

により、地球環境の浄化保全を図らなければなりません。

私は、昭和48年創立以来育て上げてきた株式会社ネップ(日本環境保全)の社長を平成4年に退任し、かねてより念願の当NPO団体「人間環境活性化研究会」(略称ハートの会)を平成6年に創立し、環境問題に取り組んで、今年で満7年目を迎えます

環境庁長官川口順子、根津育英会理事長・武蔵学園長田中郁三両氏のご講演に始まり、セミナー・会報・分科会・ワーキンググループ・見学会などの活動を活発に行ってまいりました。

今後も着実に本会を運営し、人間環境を守り、人間の生存を永く維持するために貢献したいと念じております。